

八王子地区 保護司会だより

第 115 号

令和 4 年 1 月 25 日発行
発行 八王子地区保護司会
編集 広 報 部
電話 042-657-4928

大自然の生きる力を再犯防止へ

大本山高尾山薬王院
中興第三十三世貫首

佐藤 秀仁



令和2年、日本遺産に認定され近年では観光地としても広く知られる高尾山は、奈良時代の天平十六年、聖武天皇の勅命を受けた行基菩薩により薬王院が開かれました。

永和年間には山岳信仰が伝わり修驗道山伏の靈山としても繁栄を極めてきました。明治時代以降は真言宗智山派の大本山として成田山や川崎大師の御両山と共に多くの人々の心の拠り所として今日に至っております。

現在、当山では山麓にある多摩少年院の出院準備生を対象とする奉仕活動を通じた集合教誨を行っております。少年達は、久しぶりの外出に「感いたながらも山上から関東を一望する絶景を眺める時、とても穏やかな表情を見せてくれます。その後、参道の清掃を行うのですが、「これまでの自分自身の心の中にある怒りや弱さを落ち葉や雑草と共に掃き清め、いわば、道が綺麗になる分だけ自分自身の心も綺麗になり、その心を社会で再び努力する自信にしてほしい」と説明をしたうえで清掃を始めます。すると道行く人々から「ご苦労様」「有難う」といった労いや感謝の言葉をかけて頂けるのです。

実は、これが少年達にはとても良い影響を与えています。「僕は生まれて初めて人から感謝され

た」という少年もいます。はにかみながら人の役に立つ喜びを感じるのでしょう。

清掃後には精進料理の昼食を取り、その後、車座になって座談会を行います。少年達は普段の生活に於いてお寺で過ごす機会などほぼ無いですし僧侶と話をする経験も珍しいでしょうから、「お坊さんへの質問コーナー」と称し、一人ずつ質問を受けながら座談会を進めていきます。お賽銭の使い道や、僧侶の身だしなみについて、お寺での生活等、リラックスして笑いを交えながら答えるのですが、中には将来への不安や悩みなどを打ち明けてくれる少年もいます。こうした質問には、自分の経験をもとに相手の目を見ながら真摯に応えるように心がけております。こうして半日を高尾山の中で過ごした少年達は大自然の恩恵を体全体で受け止め、それぞれスッキリしたような表情となります。

少年達が再犯しないようにする為に一番最初に大切にしなければならない事は、当人達の「今後は真っ当に生きる!」という覚悟なのであります。

見送りの際、下山する少年達の背中に向けて、「お山の中で体中に得た大自然の息吹を人生を生き抜く力として發揮して欲しい!」と唯々願うのであります。

合掌



新年度を迎えて

会長

三入 重夫

新型コロナウイルス感染症が他に類をみないほど世界中に大流行をし、人々の日常生活を一変させてしまいました。

未だ感染症の終息の見通しが立たない状況下、更生保護活動・犯罪予防活動・再犯防止活動等々は、人との接触が制限され様々な行動制約が課される中での保護司活動になりました。これら多くの行動制約は今まで考えることもなく、経験したことがない状況になりました。

対象者との面接は、保護観察所の指示のもと創意工夫をしながら可能な範囲での限られた保護司活動になってきています。保護司同士のつながりや関わりも希薄になり、情報交換や関係機関との連携等が行いにくくなっています。

このような混沌な情勢の中、保護司活動の運営方針や会の礎を決定する定期総会を初め、分区会、部会・委員会、研修会等が書面開催になってきています。そのような中、デジタル技術の活用が呼ばれ環境整備も整いつつ、ICTを活用した活動が進み始め、会議や研修形態が変容してきています。定例研修も自習研修方式になりDVDでの学習方法に代わってきています。

同様に保護観察対象者の面接方法も今までとは、全く一変してしまい新しい取り組み方法となり、やりにくさを感じています。対面して相手の目や顔色、声や話し方や態度、出迎え時の服装、態度から面接開始までの様子、面接終了後に送り出した後までの様々な対象者のありのままの行動観察を行うことができなくなりました。

対象者を一人の人として全体像を理解し、心の内側の声を聴き更生の手助けをする地道な保護司活動が感染症防止対策のため、難しくなってきています。携帯電話の代用面接は断片的で相手が見えにくくなり、心の変化や行動変容が見いだせない状態が続くのであろうと心配な面を感じています。

このような状態がいち早く終息することを願つ

てやみません。面接がやりにくい状況にあっても、対象者が更生し安全で安心な地域社会の構築の一員として社会人になれるよう、助言・指導のお手伝いができるべきと思っています。

コロナに負けない保護司会 を目指して



総務部長

尾崎 敏夫

令和2年1月、国内で新型コロナウイルスが確認されて以来、早や2年が過ぎました。この間、保護観察対象者との面接が新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から電話等による面接となつたほか、地区保護司会総会が書面開催となり、新年懇親会は中止となりました。また、昨年度に引き続き第6ブロック保護司組織運営連絡協議会もリモート会議方式による開催となるなど、私たちの保護司活動も大きく制約されてきました。

こうした状況の中、八王子地区保護司会においては、保護司会事務所へのアクリルパーテーションの設置や、消毒液の設置などの感染予防対策を講じてきました。また、今後のICT化を踏まえて保護司会事務所のPC環境の整備やリモート会議に必要となる「ZOOM」の導入、地区保護司のメールアドレスの把握、ICT化に向けての意見集約などを行ってきました。

今後も令和3年9月に発足した「PC環境整備に向けてのプロジェクトメンバー」とともに総務部所属の保護司が中心となって、「コロナに負けない保護司会」を目指して取り組んでいきますので、皆様方のご協力をお願いいたします。

退任保護司^(敬称略・順不同)

長い間ご苦労様でした。

大塚 武彦(中央) 平田 瞳美(東)

立川 道雄(西) 高野 美恵子(高尾)

平澤 東(東)

東京保護観察所立川支部



東京保護観察所立川支部長

藤井 淑子

最近、ご縁があつて大学生に講義をさせていただきました。令和4年4月から成年年齢が18歳になりますが、罪を犯した18歳及び19歳の人は17歳以下の人とは異なる扱いになるものの、引き続き少年法が適用されることになっています。

せっかくの機会なので、年齢が近い大学生の方々に、罪を犯した18歳及び19歳の人は成人として扱われるべきか、少年として扱われるべきか、どのように考えているのか聞いてみました。そうしたところ、思いのほか成人として扱われるべきという意見が多く、かつその理由もそれぞれ考えられたものだったので、印象深かったです。

保護司の方々にお願いすることは、もともと20歳未満の人と20歳以上の人に対する処遇とで大きく違うわけではなく、令和4年4月に成年年齢が18歳になっても、何かが大きく変わるわけではありません。保護観察の制度そのものは時代の要請を受けて少しずつ変わっていきますが、時代が変わっていっても、地域の保護司の方々に支えられて保護観察対象者が更生していくことは変わらないと思っています。

今後とも御協力を賜りますようお願い申し上げます。



着任のご挨拶

保護観察官

藤田 幸恵

日頃より更生保護にご協力をいただきまして、感謝申し上げます。

5月末から、みなみ分区を担当しております藤田と申します。学生時代を八王子で過ごした私にとっては思い出の詰まった場所なので、ご縁を感じ、とても嬉しく思います。学生当時はBBS会員として活動することもありましたので、援農活動で収穫したトマトがとても美味しかったこと、さ

がしてクッキングで更女会員の方から正しい野菜の切り方を習ったこと等、昨日のことのように思い出されます。

保護観察官として駆け出しまでございますが、皆様の良きパートナーとなるべく、日々精進する所存です。何かございましたらいつでも、お声がけくださいますと幸いです。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



着任のご挨拶

保護観察官

坂本 幸美

昨春から西分区を担当させていただいております坂本と申します。

保護観察処遇の興味深い点は処遇者側にも対象者側にも多様な人々がいることだと思います。まったく別の人生を歩んできた者同士が顔と顔を突き合わせて語り合うことで生まれる力への驚きと緊張を常に感じています。とりわけ、面接では意外なことがきっかけでその人の軸となる部分に触れることがあります。

私は本や漫画が好きですが、そのタイトルを一つ知っているだけで対象者の思ひぬ一面や表情を見られることもあります。人生経験豊富な保護司の先生方とともに、あらゆる角度から対象者理解を深め、より良い処遇を開拓していきたいと考えておりますので、何卒ご指導のほどよろしくお願ひいたします。

部会・委員会活動

～コロナ禍の現状とこれから～



研修部 部長

中川 常彦

研修部は集合研修を全く出来ずこの一年が過ぎ去ろうとしています。

唯一開催できたのは、令和3年11月13日に子安町にある自愛会で行った研修部会だけである。塙本秀雄研修部担当副会長にもご参加いただき、12名の出席となった。

委員からは、独自で講師を呼んで開いていただきたいという要望もあり、モバイル研修もしていただきたいと、委員の中でもパソコンの熟達度に大きな差があることを痛感した。

比較的高齢者の多い保護司会会員の中ではいまさらのことである。

多摩地区としては、今年2月24日に松浪健四郎氏を講師に多摩地区保護司会全体研修会が開催予定となっている。八王子の定例研修会も早期に開催できることをただ願うばかりである。



地域活動部 部長

石森 康夫

地域活動部の活動は大きく二つに分類される。一つは更生保護活動並びに青少年健全育成に関する活動に協賛し協力する事業（社会参加活動・社会を明るくする活動・薬防協の啓発広報活動）。

もう一つは保護司会独自の活動です。これに含まれるものとして座禅会があります。保護司は直接保護対象者に接する、その時大事なことは心の平穏を保つことです。対象者の言動を観察しその奥に潜む心を感じなければなりません。常に冷静な心を持つことが大事です。座禅はその心を養う上で大変価値あることだと思います。今コロナ禍にあり対象者の参加はままならないかもしれません。が保護司だけで開催するのも充分効果があると思います。企画の折には協力をお願いしたいと思います。



広報部 部長

大久保 隆

今回、初めて広報部に配属され、いきなり広報部長をすることになった大久保です。

広報部の仕事って何？そこで部員の方々から様々な意見を頂きました。一番は会員の方々に読んでもらえる「保護司会だより」を発行する事。そして一般の人に保護司の仕事を知てもらう事だと気づきました。読んでもらう為にはどうしたら良いか？それは記事に人間性を出す事だと思います。

格式ある「保護司会だより」なのであまり碎けてはいけないが、人が見えて来る広報誌にしたいと思います。そして一般の人に保護司を知つてもらうために、一般向けの楽しいパンフレットを発行し、なるべく多くの人の目にとまる場所に置きたいです。これから保護司のために。



協力組織部 部長

河井 孝之

協力組織部部長の西分区の河井です。協力組織部とは、下記のような更生保護に関わりのある組織と保護司を繋げる為のものです。

先ず、八王子市更生保護協力事業主会とは、犯罪・非行の前歴のために定職に就くことが容易でない刑務所出所者等を、その事情を理解した上で雇用し、改善更生に協力する民間の事業者の方々です。

また、八王子BBS会とは、Big Brothers and Sisters Movementの略称です。行き場のない、また、問題を抱えた少年たちの“兄や姉”“良き友達”となって一緒に遊んだり、悩みの相談に乗ったりして、彼らが健やかに成長することのお手伝いをしている青年ボランティア活動です。更に、更生保護女性会などがあります。



学校担当委員会 委員長

後藤 貴弓

学校担当委員会は、平成14年7月「学校サポート委員会」として発足し、平成15年「学校担当委員会」となり現在に至っています。平成24年8月には、文部科学省と法務省とで、学校と保護司の連携の推進について文書が取り交わされ、教育委員会にも学校と保護司との連携について周知されています。小学生、中学生と保護司との関わりは難しいところではありますが、社会全体で子供を見守り、健全育成を推進するためには、学校や地域・社会がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子育てや教育に取り組む体制が必要となります。私達保護司もその一助になればと思い活動しております。

分区活動 ～コロナ禍の現状とこれから～



東分区長

秋山 重男

「大変」とは、大きな変事と辞書にあります。新型コロナウイルスにより、世界中が「大変」なことになりました。罹患された方、亡くなつた方は、相当な数になっています。こんな中、八王子地区保護司会の活動も「大変」なことになり、活動が制約されました。いつ活動が、全面解禁になるかは定かではありませんが、自分を守る為、また他人を守る為にも、ワクチン接種は大切です。うがい・手洗い・マスク・三密回避等、感染対策をおこない、今後の活動再開を待ちたいと思います。



中央分区長

佐藤 順一

中央分区長では、今年度もまたコロナ禍と言うこともあり、まだ分区役員会、分区会も開催しておりません。分区の皆様ともお顔を合せることもなく時間だけが過ぎて行きました。ここにきてようやくコロナも収まりつつありますが、今後とも感染防止に注意しながら分区会等を進めてまいります。当分区会は保護司会規約を遵守し、会員のコミュニケーションを大事にし、分区会、管外研修などを通じていろんなことが話し合える場を持ちたいと思います。またこのことが相互関係を生み新たな保護司候補者の発掘につながればと考えます。皆様の協力を得て微力ながら分区会を行ってまいります。



高尾分区長

八木 光司

コロナ禍で出発しました令和3年度ですが、地区保護司会総会、また分区総会も書面開催となり

ました。分区は令和2年度から3年度にかけて新任保護司5名、他地区より転入された保護司2名の計7名の方が会員となり総会員数31名となりました。コロナ禍でここ2年、分区会、歓迎会、管外研修、地域事業も出来ない状況でしたが、会員の多数の方々から会員のお顔を見たいとのお話を受け令和3年7月3日に28名の会員で分区会を開催することが出来ました。これからについては10月の役員会で話合い、保護司会の諸行事の進め方を見て行く事としました。



西分区長

新野 照代

理事会決定事項と会費徴収等を盛り込んだ第1回西分区会を6月12日に計画しました。しかし、9月の第2回西分区会も新型コロナウイルス感染拡大で度重なる緊急事態宣言発令を受け、書面開催で実施しました。会費徴収は、口座振り込みで徴収し8月20日にZOOMを利用してオンライン西分区役員会を初めて実施しましたが、不慣れなこともあります。6人の参加で携帯電話を側に置き開催しました。令和3年12月4日には、第3回西分区会を実施して今年度初めて皆様と短時間ですが「マスク顔」でお会い出来ます。人と極力接しない未曾有の事態を必死で乗り越えて来ました。



みなみ分区長

本田 良久

みなみ分区は市の東～南側、市の人口の35%、19万3千人が暮らす地域を担当しています。市街地からは遠く離れ、多摩ニュータウン開発で急速に発展してきた地域です。現在24名の保護司が所属し、他分区と同様の更生保護活動を行っています。特に自主研修には力を入れており、講師を仲間の保護司が務めることが多いのも特長あります。ご自身の得意分野や研究されてきたことを発表していただき、皆で討議して内容を共有しています。また、会合が非常に和やかにおこなわれるのも特長の一つです。今後もこの特長を大切にして活動を続けていきたい、と考えているところです。

第70回社会を明るく運動作文コンテスト最優秀賞 皆で支え合える社会



第一中学校2年 中里まりあ



ニュースで悲しい事件が報道される度、なぜこんなことが起こってしまうのか、人を傷つけるとはどういう気持ちなのか、私には全く理解できませんでした。なぜ非行や犯罪が起きてしまうのでしょうか。

非行や犯罪に走る人は、生まれつきそのような人達ではないと思います。最初は皆かわいい赤ちゃんだったでしょう。では、どこで変わってしまったのか考えると、原因は様々だと思いますが、親の愛情不足や貧困などの環境、また本人の性格や障がいもあるかもしれません。それにより、社会から孤立し、心が傷つき、心を閉ざし、自暴自棄になった結果、非行や犯罪にまで陥ってしまうのではと推測します。

すぐにこの世の中にある非行や犯罪をなくすことは難しいかもしれません、手遅れになる前に何かできることはいか考えました。

私はよく母と散歩をするのですが、その際ゴミを拾っていたら、年配の男性が「きれいにしてくれてありがとう。」と話しかけてきました。私は少し恥ずかしかったけど、嬉しかったです。その方は一人暮らしとのことで、

「今日初めて人と話す、おしゃべりしてくれてありがとうね。」と笑顔で去って行きました。

私は、讃められて嬉しかったのと同時に、こんな私でも人の役に立てるのだと心が満たされました。

また、私は空手を習っているのですが、空手の先生方は自分の仕事をされてから、ボランティアで教えに来てくれています。空

手の技術だけでなく、心の持ち方なども熱心に教えてくださいます。家族でもないのに、ここまで教え子たちのことを一生懸命に考えててくれて、とてもありがたく、心強く思います。

そして、一緒に習っている空手の仲間たちは学校も学年も違いますが、とても仲良く、学校とは違ったコミュニティで楽しいです。小学校の時、学校で嫌なことがあっても、空手に行くと、気分が変わり、リフレッシュできました。

私がこれらの経験を通して思うことは、今、自分がいる狭い世界だけでなく、もうひと回り広い世界を見ることの大切さを知ってほしいということです。

今いる環境だけでは孤独で窮屈と感じる人たちに、違う場所で温かい心に触れ、思いやりの経験を重ねてもらうことができるといいと思います。今いる場所は辛い場所かもしれないけど、世間には優しい人たちがたくさんいます。そして、ひと言あいさつするだけでも、心が温まります。誰かの笑顔は閉ざされた心を溶かすと思います。誰かに傷つけられ、悲しい思いをした人たちを癒やすのは、やはり誰かの愛情です。

周りに目を向け、様々な分野の人たちと触れ合うことで、大切な人できます。大切な人を悲しませるようなことはしたくない、という思いが、非行や犯罪をストップさせてくれるでしょう。そして、周りの人達も、すれ違う人にあいさつをする、また寂しそうな子がいたら声をかけるなどほんの少し行動を変えるだけで、色々な人を救えると思います。

最優秀賞受賞者インタビュー

日時：令和3年10月18日（月）

場所：第一中学校校長室

参加者：中里まりあさん、門馬弘校長、
大久保隆、伊藤裕司（広報部）

校長

中里さんは、生徒会副会長としても頑張っています。しかし、入学した当初はあまり目立たない生徒でした。

中里

人前に出る事が苦手でしたが、生徒会役員をやるようになって前に出ることが平気になりました。人前で発言するようになりました。そのことが楽しくなりました。

大久保

なぜ楽しくなったのですか？

中里

生徒会の先輩がいつも優しく支えてくれ、自信をつけてくれたからだと思います。

伊藤

中里さんの将来の夢はなんですか？

中里

母のような看護師になりたいです。

伊藤

なぜ看護師になりたいのですか？

中里

母から患者さんとのエピソードを聞かされるので。例えば、患者さんが笑顔になったとかを話し



てくれるのです。

校長

お母さんが看護師というお仕事に誇りをもっていらっしゃるのでしょうか。

大久保

空手をやっているようですが？

中里

ハイ、もう10年になります。保育園の頃からやっています。今は、黒帯です。

大久保

作文の中で、空手の練習で心の持ち方を教えられたと発表していますが、どういうことですか？

中里

空手をずっと練習してきて、いろいろなことを学びました。空手は挨拶から始まります。挨拶の大切さはしっかり学びました。（武道は礼に始まり礼に終わると言われます）。また、自分の意志を貫くことも学びました。空手を続けて、心も体も成長できたと思います。

大久保

黒帯を目指すという目標をもっているから、空手の先生から、「帯にふさわしい行動をとるように」と教えられるのですね。

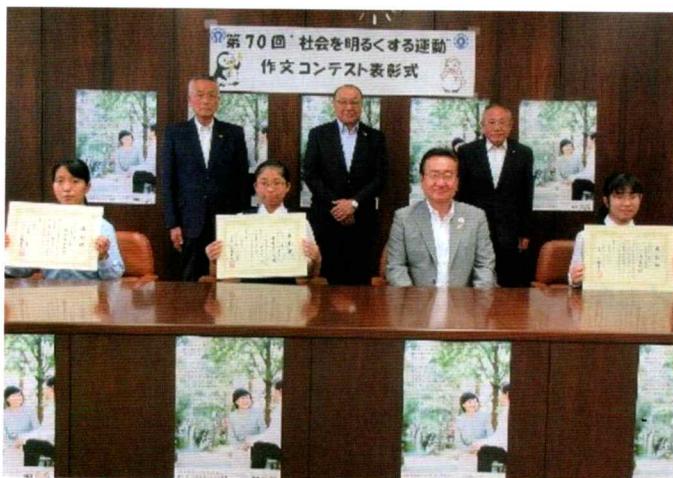
伊藤

結びに一言を！

中里

中学生の悲しいニュースや自殺の報道を聞くと、その人にどう寄り添ったらいいのかを考えさせられます。学校だけの狭い世界で判断するのではなく、いろいろな人と触れ合い、広い世界に目を向けてほしいと願っています。

（記 伊藤 裕司）



前列は受賞者及び石森孝志八王子市長
後列は社会を明るくする運動八王子実施委員会の皆さん

新任保護司

～これからの抱負～

高尾分区

荒木 美奈

20歳娘（大学生）と12歳男子（小学生）の母。仕事は、広告制作会社の営業です。趣味は、楽しく飲む・食べる、キャンプ（最近できていないです）、釣り（食べれる魚のみ）、スキー（最近はお酒と温泉の時間が多い）、ゴルフ（下手なので、楽しいゴルフが好き）です。特技、おつまみ作り。最近体がなまっているので、少し体力作りをしなくてはと思う毎日ですが、日々の忙しさを理由に逃げている自分をもう少し追い込みたいです。

保護司として活動する機会をいただきました今、まだ勉強不足であります。皆様のお力を借りながら、微力ではありますが、何か一助になれればと思っております。



高尾分区

清水 隆

清水さんは長年、子ども会育成会の会長として活躍し、中学校区の青少対の役員や学運協の役員を歴任し現在に至っています。地元の町会長からの要請で、この度保護司を引き受けました。

「最近思うことは、今の世の中は自己責任・成果主義社会で、努力すれば偉くなれるし給料も高くなる。仕事が出来ないと君が悪いし君の責任もある。しかし、人は持って生まれた才能だと環境だと運によって左右されると思う。私は良い環境や運に恵まれ、地域で育てられたと思っている。その恩返しをしたい。本来、社会を構成している人々は助け合うことが必要だと思う。人の尊厳を認めてくれる人との出会いは大切。」という。

(記 伊藤裕司)



西分区

馬場 貴大

長引く新型コロナウイルス感染症の状況をしながら過ごす日常において、一刻も早い収束と安心して過ごせる日々が待たれる毎日ではありますが、この度、新任保護司としてご推挙いただきましたことに深く感謝申し上げます。

日頃は八王子市議会議員（現三期）として活動をさせていただいております。

これまで先輩議員としてご活躍された、塙本秀雄先生から保護司としての貴重なお話をうかがう中で、私自身も挑戦させていただくこととなりました。

今後は保護観察対象者との面接など、先輩諸兄のご経験や主任官の方から学ばせていただくと共に、みなさま方よりご指導を賜れますよう切にお願い申し上げます。



高尾分区

小河 義伸

一昨年10月に八王子に転居してきました。福岡県の出身で、保護司は東京（目黒区）、宮城県（仙台市）、そして八王子で3ヶ所目になります。幼い頃から落ち着きがないと言われていた性格ですが、八王子で落ち着くことができればと願っています。

四半世紀ほどキリスト教会付属幼稚園に牧師として関わってきましたので、子どもと遊ぶこと、子どもの生き生きとした姿を写真に収めることができます。

八王子でも子どもの施設に少しだけですが関わることができるようになり、子どもの成長を楽しみながら見守ることができればと思います。まだ地域に慣れていませんので皆さん、ご指導よろしくお願いします。

編集後記

コロナ禍により数ヶ月の遅れでしたが、新年の初め、広報誌115号を発行できました。また、高尾山より貴重の巻頭言と初日の出の写真を送って頂きました。
関係の皆様に厚くお礼申し上げます。

(伊藤)